

がん患者状況等調査結果概要

※患者・家族等への調査、医療従事者への調査の2種類を実施

《アンケート結果 総評》

【がん対策で必要と思う施策】

・全年代の患者を通じて、「高度医療が受けられる医療機関の充実」を求める声が最も多い。また、若年になるにつれて「医療費補助などの経済的な支援」や「治療と就労の両立支援」を望む声が多くなる一方、高年になるにつれて「在宅医療の支援体制に整備」等を望む割合が多くなる。(P.3 患者調査 4(4))

・小児・AYA 世代のがん対策としては、「診察体制の整備」や「就学、就労、妊娠等に関する相談体制」を望む声が多い。(P.6 患者調査 4(21)) (P.9 医療従事者調査 4(12))

・年代ごとに直面する課題、求める施策が異なり、それぞれのライフステージに応じた情報提供・支援体制が求められていることがうかがえる。

【情報提供・相談体制】

・がん相談支援センターの役割・設置場所とも知っている患者等は 33%にとどまり、5年前の調査時(35.4%)から改善されていない。また、がん相談支援センターについて情報提供を行っている医療従事者は 40%未満であり、患者等への積極的な情報提供がなされていない状況である。(P.3 患者調査 4(5)) (P.7 医療従事者調査 4(2))

・患者と医療従事者の両方に、セカンドオピニオンの情報提供に関する質問をしたところ、「説明をしている」と答えた医師が約 63%だったのに対し、「説明があった」と答えた患者が約 43%であり、両者の結果に乖離があり、医師と患者間の認識のずれがうかがえる。(P.4 患者調査 4(9)) (P.8 医療従事者調査 4(6))

【緩和ケア】

・「患者やその家族に対して、がんと診断された時から緩和ケアについて十分に説明をしている」と答えた医師は約 40%で、「がんと診断された時から緩和ケアを受けたことがある」と答えた患者は約 22%にとどまっている。(P.4 患者調査 4(13)) (P.9 医療従事者調査 4(9))

・緩和ケアについては、未だに終末期のケアであるという誤解がある。身体的・精神的苦痛等への対応を診断時から行うことが、患者とその家族の療養生活の質の向上につながることから、引き続き、患者・医療従事者双方への普及啓発を推進するとともに、がんと診断された時からの緩和ケア提供体制の充実を図る必要がある。

【就労支援】

・約半数の方が就労しながら治療を受けており、8 割以上の方ががんと診断されたことを職場に話している。(P.5 患者調査 4(16~19))

・「治療のために休みをとりやすい体制を望む」、「副作用の影響で仕事がつらい」、「職場の理解が大事」と答える方が多く、安心して働ける社会の実現の第一歩として身近な職場での理解促進が望まれていることがうかがえる。(P.6 患者調査 4(20))

がん患者状況等調査結果概要（患者・家族等への調査）

1 調査期間

平成29年6月～7月

2 調査方法

アンケート郵送回収による調査

調査票配布枚数	調査票回収数	有効回収率
680	306	45.0%

がん診療連携拠点病院(12)・県指定病院(13)や患者会等へ依頼

3 アンケート回答者内訳

〈属性別〉

項目	回答数	構成比
ご自身ががんの治療中である	174	56.9%
ご自身ががんの治療を受けていたことがある	50	16.3%
ご家族ががんの治療中である	40	13.1%
ご家族ががんの治療を受けていたことがある	47	15.4%
その他	6	2.0%
合計	306	—

〈年齢別〉

項目	回答数	構成比
20歳未満	1	0.3%
20代	5	1.6%
30代	12	3.9%
40代	31	10.1%
50代	69	22.5%
60代	85	27.8%
70歳以上	103	33.7%
合計	306	100.0%

〈性別〉

項目	回答数	構成比
男性	139	45.4%
女性	165	53.9%
無回答	2	0.7%
合計	306	100.0%

4 アンケート結果（抜粋）

(1) がんと診断されたきっかけは何でしたか。(p.7)

項目	回答数	構成比	参考H24調査
健康診断（人間ドック、がん検診を含む）	103	33.7%	35.0%
何らかの自覚症状による医療機関受診	152	49.7%	53.4%
その他	40	13.1%	—
無回答	11	3.6%	11.7%
合計	306	100.0%	100.0%

(2) 治療を受けている（受けていた）のはどちらの病院ですか。(p.11)

項目	回答数	構成比	参考H24調査
がん診療連携拠点病院等	123	40.2%	35.0%
県がん診療指定病院	90	29.4%	35.0%
上記以外の病院	75	24.5%	23.2%
無回答	18	5.9%	6.8%
合計	306	100.0%	100.0%

(3) がんについてどのような情報が必要ですか。(p.15)【複回答】

順位	項目	回答数	回答者割合	(参考)H24調査
1位	がん治療の内容	210	68.6%	(1位)68.4%
2位	医療機関の情報	161	52.6%	(2位)61.7%
3位	緩和ケア	133	43.5%	(3位)51.0%

(4) がん対策についてどのような施策が必要と思われますか。(p.20)【複回答】

順位	項目	回答数	回答者割合	(参考)H24調査
1位	高度医療の医療機関	181	59.2%	(2位)50.5%
2位	経済的な支援	156	51.0%	(1位)51.0%
3位	がん検診の体制整備	146	47.7%	(3位)33.5%

〈参考：年代別〉

項目	若年		中年		高年	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
高度医療の医療機関の充実	11	61.1%	57	57.0%	113	60.1%
在宅医療（通院医療を含む）の支援体制の充実	3	16.7%	33	33.0%	67	35.6%
事業者に対する普及啓発・就労との両立支援	7	38.9%	20	20.0%	21	11.2%
医療費補助などの経済的な支援	12	66.7%	55	55.0%	89	47.3%

(5) がん相談支援センターの役割や設置場所（1か所でも）をご存じですか。(p.31)

項目	回答数	構成比	(参考)H24調査
役割・場所とも知っている	101	33.0%	35.4%
役割までは知らないが、場所は知っている	46	15.0%	11.2%
役割は知っているが、場所は知らない	26	8.5%	14.1%
役割・場所とも知らない	124	40.5%	35.9%

(6) がん相談支援センターを今後も利用してみようと思いますか。(p.38)

項目	回答数	構成比	(参考)H24調査
思う	43	93.5%	83.3%
思わない	1	2.2%	12.5%

(7) 拠点病院等で地域連携クリティカルパスを利用されたことがありますか。(p.46)

項目	回答数	構成比	(参考)H24調査
利用したことがある	12	3.9%	1.9%
名前を聞いたことがあるが、利用したことはない	73	23.9%	21.8%
どういものなのかも全く知らない	197	64.4%	70.4%

(8) 医師等の医療スタッフは、治療について欲しいと思った情報を提供しましたか。(p.53)

項目	回答数	構成比
十分提供した	114	37.3%
ある程度提供した	122	39.9%
どちらとも言えない	33	10.8%
あまり提供しなかった	13	4.2%
まったく提供しなかった	4	1.3%
無回答	20	6.5%

(9)セカンドオピニオンが受けられることについて、担当医から説明はありましたか。(p.57)

項目	回答数	構成比
説明があった	87	28.4%
説明はなかったが、自分や家族から質問した	44	14.4%
説明はなく、自分や家族から質問をしなかった	84	27.5%
わからない/覚えていない	72	23.5%
無回答	19	6.2%

(10)本人又は家族が納得いく治療を選択することができたと思いますか。(p.61)

項目	回答数	構成比
そう思う	221	72.2%
そう思わない	11	3.6%
どちらとも言えない	56	18.3%
無回答	18	5.9%

〈自由回答〉

*「そう思う」の理由

- ・医師や看護師が何度も納得いくまで話を聞いてくれた。
- ・医師の指導だけが頼りだった。
- ・複数の医師の意見が聞けた。また、医師同士の連携がとれていると感じたから。

*「そう思わない」の理由

- ・手術しかないと言われた。もう少し丁寧な説明が欲しかった。宣告された側は動揺しているので質問まで頭がまわらない。
- ・どういう選択肢があるか分からなかったので、もっと丁寧な説明が欲しかった。

*「どちらとも言えない」の理由

- ・現在検査中で、治療は今後。
- ・自分が病気になったことがショックで受け入れられず、その頃の覚えがない。

(11)これまで受けられた(受けている)治療において困ったことはありませんでしたか。(p.66)【複数回答】

順位	項目	回答数	回答者割合	参考H24調査
1位	経済的な負担が大きかった	79	25.8%	37.9%
2位	同じ病気の人から話が聞きたかった	55	18.0%	19.9%
3位	不安について相談ができなかった	37	12.1%	16.5%

(12)治療費の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか。(p.73)

項目	回答数	構成比
ある	28	9.2%
ない	265	86.6%
無回答	13	4.2%

(13)がんと診断された時から緩和ケアを受けたことがありますか。(p.76)

項目	回答数	構成比	参考H24調査
ある	68	22.2%	16.5%
ない	222	72.5%	75.7%
無回答	16	5.2%	7.8%

(14) 安心して在宅で治療を続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(p.84)【複数回答】

順位	項目	回答数	回答者割合	(参考)H24調査
1位	急変した時に対応してくれる体制	178	58.2%	(1位)50.5%
2位	夜間・休日の診察体制	126	41.2%	(6位)25.7%
3位	退院時の、退院後の治療や検査時期等の説明	119	38.9%	(3位)38.8%

《参考》H24年度調査

2位：経済的負担が大きくなる(41.3%)

4位：介護等をする家族の肉体的・精神的負担が大きくなる(31.1%)

(15) 退院するまでに、生活上の留意点について入院していた医療機関から情報を得られましたか。(p.90)

項目	回答数	構成比
十分得られた	98	32.0%
ある程度得られた	131	42.8%
あまり得られなかった	19	6.2%
全く得られなかった	4	1.3%
分からない	19	6.2%
無回答	35	11.4%

(16) がんと診断されたとき、収入のある仕事をしていましたか。(p.98)

項目	回答数	構成比
収入のある仕事をしていました	138	45.1%
収入のある仕事をしていなかった	141	46.1%
無回答	27	8.8%

(17) がんと診断されたことを職場に話しましたか。(p.101)

項目	回答数	構成比
関係者に広く話した	54	39.1%
一部の関係者のみに話した	66	47.8%
話さなかった	14	10.1%
無回答	4	2.9%

(18) 治療中に、治療と仕事を両立できるような配慮等を仕事上の関係者から受けたと思いますか。(p.106)

項目	回答数	構成比
そう思う	78	56.5%
そう思わない	20	14.5%
分からない	30	21.7%
無回答	10	7.2%

(19) 「収入のある仕事をしていました」を選択された方のみ、これまでのがん治療・療養を通して、退職・廃業の有無と現在の仕事の状況を教えてください。(p.110)

項目	回答数	構成比
退職等したことはない(休職中を含む)	61	44.2%
退職等をしたことはあるが、現在は就職している	13	9.4%
退職等した。再就職の希望はあるが、現在はしていない	13	9.4%
退職等した。特に希望はないため、現在は再就職していない	26	18.8%
その他	13	9.4%
無回答	12	8.7%

(20) 就労を継続することや就職をする上で障害と感ずることがあれば教えてください。(p.115)

〈多かった内容〉

- ・休みを取りやすい体制
- ・副作用の影響で仕事がつらい。
- ・現在は職場の理解があるが、今後治療が長期になると先が見えない。
- ・体力がなく、職場で配慮してもらうためには病気のことを話さざるを得ない。

(21) 小児・AYA 世代のがん対策として、どのようなことが必要だと思いますか。(p.117)【複数回答】

順位	項目	回答数	回答者割合
1位	診察体制の整備	172	56.2%
2位	就学、就労、妊娠等に関する相談体制	132	43.1%
3位	後遺障害を治療できる専門施設に関する情報提供	104	34.0%
4位	生殖機能等への影響等(後遺障害)に関する、治療前の説明	99	32.4%

〈参考〉若年(40歳未満)

- 1位：就学、就労、妊娠等に関する相談体制(72.2%)
- 2位：診察体制の整備(61.1%)
- 3位：生殖機能等への影響等に関する、治療前の説明(44.4%)
- 4位：後遺障害を治療できる専門施設に関する情報提供(44.4%)

がん患者状況等調査結果概要（医療従事者への調査）

1 調査期間

平成29年6月～7月

2 調査方法

アンケート郵送回収による調査

調査票配布枚数	調査票回収数	有効回収率
590	279	47.3%

がん診療連携拠点病院等(12)・
県指定病院(13)、地域のがん診
療協力医療機関(34)へ依頼

3 アンケート回答者内訳

項目	回答数	構成比
医師・歯科医師	126	45.2%
保健師・助産師・看護師・准看護師	90	32.3%
薬剤師	10	3.6%
放射線技師	5	1.8%
メディカルソーシャルワーカー	18	6.5%
その他医療従事者（診断情報管理士、理学療法士、臨床心理士）	30	10.8%
合計	279	100.0%

〈職種別〉

項目	回答数	構成比
鹿児島	83	29.7%
南薩	42	15.1%
川薩	21	7.5%
出水	18	6.5%
始良・伊佐	38	13.6%
曾於	18	6.5%
肝属	38	13.6%
熊毛	6	2.2%
奄美	15	5.4%
合計	279	100.0%

〈勤務地の医療圏別〉

4 アンケート結果（抜粋）

(1) 全国がん登録は、貴医療機関の職員に十分に周知されていると思いますか（p.130）

項目	回答数	構成比
周知されていると思う	77	27.6%
あまり周知されていないとは思わない	202	72.4%
合計	279	100.0%

(2) 貴医療機関では、がん患者等に対して、相談支援センターについて情報提供を行っていますか（p.133）

項目	回答数	構成比
行っている	105	37.6%
存在を知っているが、情報提供は行っていない	135	48.4%
存在を知らなかった	37	13.3%
無回答	2	0.7%
合計	279	100.0%

(3) 貴医療機関での地域連携クリティカルパスの活用状況をどう思いますか (p.136)

項目	回答数	構成比
活用されていると思う	52	18.6%
活用されているとは思わない	165	59.1%
分からない	61	21.9%
無回答	1	0.4%
合計	279	100.0%

(4) がん医療を行っていく上で、他の医療機関との連携に困難度がありますか (p.139)

項目	回答数	構成比
よくある	29	10.4%
ときどきある	127	45.5%
あまりない	110	39.4%
全くない	13	4.7%
合計	279	100.0%

(5) 患者やご家族にとって、がんについてどのような情報が必要だと思いますか (p.142) 【複数回答】

順位	項目	回答数	回答者割合
1位	がん治療の内容	207	74.2%
2位	がんと診断を受けたときからの緩和ケア	204	73.1%
3位	専門的な治療を受けられる医療機関	197	70.6%
4位	在宅医療（通院治療を含む）	162	58.1%

(6) セカンドオピニオンを受けられることについて、担当医から説明をしていますか (p.148)

項目	回答数	構成比
説明をしている	143	51.3%
説明をしていない	43	15.4%
わからない	89	31.9%
無回答	4	1.4%
合計	279	100.0%

(7) がん患者の話に耳を傾け、患者が置かれている状況を踏まえ対応していると思いますか (p.151)

項目	回答数	構成比
そう思う	182	65.2%
そう思わない	5	1.8%
どちらとも言えない	81	29.0%
わからない	9	3.2%
無回答	2	0.7%
合計	279	100.0%

(8) 診断・治療に関わる医師、看護師等は十分に連携できていると思いますか (p.154)

項目	回答数	構成比
連携できている	152	54.5%
連携できていない	17	6.1%
どちらとも言えない	99	35.5%
わからない	9	3.2%
無回答	2	0.7%
合計	279	100.0%

(9)患者やその家族に対して、がんと診断された時から緩和ケアについて説明をしていますか (p.157)

項目	回答数	構成比
十分に説明している	107	38.4%
あまり説明していない	127	45.5%
わからない	41	14.7%
無回答	4	1.4%
合計	279	100.0%

(10)緩和ケアのレベルが5年前と比較して向上したと思いますか (p.160)

項目	回答数	構成比
そう思う	155	55.6%
そう思わない	22	7.9%
どちらとも言えない	69	24.7%
分からない	30	10.8%
無回答	3	1.1%
合計	279	100.0%

〈自由回答〉

*「そう思う」の理由

- ・医師の緩和ケア研修受講者や、緩和ケア認定看護師の数が増えた。
- ・緩和ケア学習会を定期的に行っている。
- ・訪問看護ステーションとの連携を十分にとれるようになったことで、終末期まで安心して在宅で送れるようになった。

*「そう思わない」の理由

- ・一般医の認識が以前と変わらない。
- ・緩和病棟の設置ができていない。

*「どちらとも言えない」の理由

- ・がん認定看護師不在のため、リーダーシップをとる者がいない。
- ・緩和ケア研修会へ参加する等、ケアの質は向上していると思われるが、医師をはじめ人手不足の影響もある。
- ・長年かかりつけ医として地域医療から終末期医療に携わっており、家庭内の事情、経済的問題、介護や公的扶助申請に至るまで、あらゆる不安や悩みに相談・対応することが当院の役割だと思って、ずっと実践している。今後も変わらない。

(11)がん患者に対する、人生の最終段階における意思決定支援が実践されていますか (p.164)

項目	回答数	構成比
十分実践されている	31	11.1%
ある程度実践されている	172	61.6%
あまり実践されていない	59	21.1%
全く実践されていない	11	3.9%
無回答	6	2.2%
合計	279	100.0%

(12)小児・AYA世代のがん対策として、どのようなことが必要だと思いますか (p.167)【複数回答】

順位	項目	回答数	回答者割合
1位	診察体制の整備	231	82.8%
2位	就学、就労、妊娠等に関する相談体制	204	73.1%
3位	後遺障害を治療できる専門施設に関する情報提供	164	58.8%
4位	生殖機能等への影響等(後遺障害)に関する、治療前の説明	163	58.4%

患者状況等調査項目一覧

前回調査項目 (24 年度実施)		今回調査項目 (29 年度実施)			
(調査対象) 患者, 患者の家族, 拠点病院等における医療従事者		(調査対象) 患者, 患者の家族		(調査対象) 拠点病院等及び地域の医療機関において がん診療に携わる医療従事者	
1	がんについてどのような情報が必要か	1	がんと診断されたきっかけ	1	がん登録が院内の職員に周知されているか
2	がん対策についてどのような対応が必要か	2	治療した医療機関の種別	2	相談支援センターの情報提供
3	相談支援センターの認知度	3	がんについてどのような情報が必要か	3	地域連携クリティカルパスの交付状況
4	相談支援センターの利用状況	4	がん対策についてどのような対応が必要か	4	他の医療機関との連携困難感
5	相談支援センターの今後の利用希望	5	相談支援センターの認知度	5	がんについてどのような情報が必要か
6	相談支援センターを利用しなかった理由	6	相談支援センターの利用状況	6	患者へのセカンドオピニオンについての説明を行ったか
7	地域連携クリティカルパスの交付の有無	7	相談支援センターの今後の利用希望	7	がん患者本位の対応
8	地域連携クリティカルパスの効果について	8	相談支援センターを利用しなかった理由	8	院内の他職種連携
9	医療用麻薬の印象	9	地域連携クリティカルパスの交付の有無	9	緩和ケアに対する説明
10	在宅での治療を続けるために必要なこと	10	地域連携クリティカルパスの効果について	10	緩和ケアのレベルアップ
11	地域がん登録の必要性について	11	医療従事者からの治療方針等に係る情報提供	11	人生の最終段階における意思決定支援
12	がんと診断されたきっかけ	12	がん治療前にセカンドオピニオンについての説明があったかどうか	12	小児・AYA 世代のがん対策に必要なこと
13	治療した医療機関の種別	13	治療方法の選択に係る納得度		
14	緩和ケアを受けたことがあるか	14	治療において困ったこと		
15	治療において困ったこと	15	治療費の負担について		
		16	緩和ケアを受けたことがあるか		
		17	医療用麻薬の印象		
		18	在宅での治療を続けるために必要なこと		
		19	治療を終えて退院後の療養生活に関する情報を得られたか		
		20	退院後、在宅医療サービスへのつながりが円滑に行われたか		
		21	がんと診断された時の仕事の有無		
		22	(就労者のみ回答) がんと診断された時、職場に報告したか		
		23	(就労者のみ回答) 治療と仕事を両立できるような配慮・支援があったか		
		24	(就労者のみ回答) 治療中の休業の有無及びその後の復帰の有無		
		25	就労する上での障害		
		26	小児・AYA 世代のがん対策に必要なこと		

※網掛けは、今回新たに追加した質問項目